



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「ナルドの香油」

ルカ十章に、マルタとマリヤの話がある。接客に忙しかったのが姉のマルタで、主イエスの足元で、み言葉に聞き入っていたのが妹のマリヤであった。そこで主は何を話していたのかというと、前章から語り始めた十字架のことである。ご自身の死が近いことを話していたのではあるまいか。マリヤは彼女の大事なお客さんが次々と見えていることは知っていたが、主の十字架の出来事が語られ始めた時、それは彼女自身の罪を赦し、彼女に永遠の命を手渡すためであることを知った。そこまでして神の一人子、主イエス・キリストが彼女を愛していることを知り、一言半句も漏らさずに聞き入ろうとしたのである。マルタもマリヤ同様、主を愛していたのであるが、マリヤは聖書学者のウイリアム・バークレーに言わせると、「主イエスを理解しようとしていた」のであった。そのようなマリヤであればこそ、主の死が近いことを知って、その準備をした。彼女は主の関係者の中で主の葬りの準備をした唯一の人物であった。

人類の救いへの道が主の十字架を通して開かれるとは、いったい誰が想像したことであろう。だから、マリヤは自分の罪が主によって赦され、それこそが主の愛であることを知った時、何とかしてその愛に応えようと思ったであろう。

ヨハネ十二章には、死んだ兄弟ラザロの復活の感謝と共に、過ぎ越しを祝う食事中の出来事が記されている。そこでマリヤは自分の持っている一年分の給料にも匹敵する高価なナルドの香油三百グラムを主の足に注ぎ、自分の髪の毛で拭いた。女性が人中で髪を解くのはユダヤ人社会ではあり得ないことだったが、彼女はラザロを死からよみがえらせていただいたことへの感謝と、主が十字架で死んでも、彼女の罪を赦し、永遠の主の愛の対象として知っていることを知った時、マリヤは惜しげもなくナルドの香油を捧げたのであった。それはマリヤが自分の結婚準備のためにとっておいたものであったろう。だから、その時期が来るまでは誰にも差し出さしたくないものであったが、彼女が主の愛に触れた時、誰のためにその香油を蓄えてきたのが、その時に分かったのだ。

黙示録に「聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た」(二二・2)とある。結婚のためには誰しもが最高・最上のものを心を込めて準備するではないか。マリヤはこの香油を彼女の花婿として、十字架に至るまで彼女を愛し愛そうとした主に捧げたのだ。捧げるのが殊のほか嬉しかったに違いない。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

